

Contents

- 1 Editor's Note
Editor-in-Chief
- 2 Foreword
Chika AMANO

Special Section: Where We Are Now in Feminist Art Histories

Research Article

- 9 The Introduction of Gender Art Historical Methodology to Representations of Modern Society: Using Ama's Portrayal in Modern Japan as an Example
Tomoko KIRA
- 25 The Politics of Eros: Japanese Art between 1960 and 1970
Izumi NAKAJIMA
- 43 Modernism and the "Woman" Artist: Romaine Brooks' Sapphic Modernism
Chika AMANO
- 65 Wartime Women Painters Crossing Borders: Haruko Hasegawa, Fumie Taniguchi, and Mitsuko Arai
Megumi KITAHARA

Special Contribution

- 85 Gender Perspectives Open New Horizons in Art History and Image Studies: Responses to Four Reports
Mayumi KAGAWA
- 97 Constance Stuart's War: Women and Documentary's Excess
Tamar Garb (translated by Naoko UCHIYAMA)

Articles

- 119 The Effectiveness and Challenges of Intersectionality in Public Policy: An Analysis Using the Perspective of Theoretical Frameworks and Critical Praxis
Mami TAKAHASHI
- 139 Multiple Orientations as Animating Misdelivery: Theoretical Considerations on Sexuality Attracted to Nijigen (Two-Dimensional) Objects
Yuu MATSUURA
- 159 Bodies That Appear "Before the Law": Rethinking and Integrating the Basic Concepts of Cornell and Butler
Shinichi NAGANO
- 177 To Speak and to Speak Out: Reflections on Identity in Sexual Assault and Trauma Care
Hitomi INOUE
- 197 A Reconstruction of the History of Independent Queer Films in Mainland China Using A New Mode of Classification
Ning YU

- 219 Book Reviews
- 272 Editor's Postscript
- 274 Editorial Guidelines

編集後記

私は、『ジェンダー研究』がリニューアルされた21号から編集事務局のスタッフとして制作に携わらせていただいた。25号は、制作途中の2022年3月末で、編集事務局長であった平野さんと、私が退職することになり、編集事務局内の大きな変化の中で、あらたに着任された嶽本新奈さん、黒岩漠さん、研究所内のスタッフが協力して作業をすすめてくださり、こうして無事刊行されたことを本当にうれしく思っている。そして刊行に向けての皆さんの頑張りやチームワークのよさに心から拍手を送り、お礼を申し上げたい。

『ジェンダー研究』編集事務局での私の主な担当は書評の編集であった。書評書籍の選定から、評者への執筆依頼、届いた原稿の編集等の作業を通して、私自身、色々なことを学ばせていただいた。また、自分の研究分野ではあまり接点のないような研究者とも多く知り合うことができ、本当に貴重な経験をさせていただいたと思う。『ジェンダー研究』に掲載される書評はどれも、ジェンダー研究で注目される最新研究に関する書籍をとりあげており、書評の編集を通して、私自身、ジェンダー研究の動向からジェンダー問題の奥深さまで学ぶことができた。今後も『ジェンダー研究』が国内外の多くの研究者にたくさんの刺激を与え、ますます注目される雑誌として発展していくことを心から願っている。

仙波由加里

(お茶の水女子大学ジェンダー研究所 研究協力員)

『ジェンダー研究』25号の制作途中である5月から編集作業を引き継ぎ、前任者の平野さん、仙波さんの助言を仰ぎつつ、編集長、編集委員会の先生方、編集スタッフに加え、滝さん(会計)、梅田さん(送付先の管理)、稲垣さん(ポスター等広報)のおかげでなんとか刊行までこぎつけられました。とりわけ、編集事務局が手薄な期間に滞りなく編集作業を進めてくださった和田さん、稲垣さんのご尽力がなければ発行はより遅れていたかもしれません。深く感謝いたします。

今号の特集は「ジェンダーの視点に基づく美術史研究の現在」をテーマに論文4本と特別寄稿2本から構成されています。特集論文4本はいずれも厳格な審査を経ており、美術史研究とジェンダー分析の接合点を見定めるのに相応しい最先端の論文たちです。ぜひ特別寄稿と併せて読んでください。ところで、これまでも学会誌などの編集経験をもつ私ですが、『ジェンダー研究』の投稿論文の多さに驚きました。投稿数が多いということはそれを審査する査読者もまた多いということです。貴重な時間を割いて審査をしてくださった学内外の研究者の方々に厚く御礼を申し上げます。厳しい審査を経て掲載された5本の論文は力作揃いです。残念ながら掲載が叶わなかった論文も審査コメントとそれへの応答過程でブラッシュアップされていくのを目の当たりにしました。次号への投稿を期待しています。

最後になりましたが、特集、一般投稿論文の校閲を担当してくださった岡本友佳さん、様々な要望に応じてくださった能登印刷・遠藤唯さん、特集テーマに合った色味の組み合わせで素

晴らしい表紙を作成して下さったデザイナーの塩飽清海さんに心からの御礼を申し上げます。

嶽本新奈

(お茶の水女子大学ジェンダー研究所 特任講師)

今号の編集作業を新たなメンバーに引き継ぐために、平野さんや仙波さんが諸々のご用意をされていたであろう3月、私はというと、よもや自分が2か月後にお茶の水女子大学のジェンダー研究所で学術雑誌の編集に関わっていようとは微塵も思っていなかった。5月に着任して今号の書評編集を担当することが決まったときも、これから自身が過ごすことになる日々について、何のイメージすらも持てていなかった。右も左も分からぬままに『ジェンダー研究』という素晴らしい雑誌にわずかでも貢献できたとすれば、それは先任の方々が残しておいてくれたもののおかげであり、何より繰り返しのご相談に付き合っていたいただいた嶽本さんと、素晴らしい校閲作業をして下さった和田さんのおかげだ。書評を引き受けて下さった皆様、能登印刷の遠藤さん、そしてこの素晴らしい機会を与えて下さった申編集長にも感謝を述べたい。

黒岩漠

(お茶の水女子大学ジェンダー研究所 特任アソシエイト・フェロー)

『ジェンダー研究』編集部を牽引して下さっていた平野さんと仙波さんが、ジェンダー研究所を去ると知らされたのが2022年2月。以後、後任の先生方のご着任まで限定的に私と稲垣さんが編集事務の一部を代行することになり、怒濤の如く押し寄せる作業をなんとかこなそうと奮闘する日々となりました。すべての原稿は、ご執筆された研究者の皆様方のいわば魂が込められたものであり、些かも疎かに扱うことは許されない。そう心得て編集作業にあたりましたので、嶽本先生と黒岩さんが編集部を力強く引き継いで下さったときは、重責から解放された思いでした。刊行に至ったことを嬉しく思うとともに感謝の気持ちで一杯です。これまで編集を担って下さった平野さんと仙波さんに改めて感謝申し上げます。そして、編集スタッフの一員として『ジェンダー研究』に関わる機会を与えてくださる申編集長に、心より感謝申し上げます。

和田容子

(お茶の水女子大学ジェンダー研究所 アカデミック・アシスタント)

(※平野恵子さんの編集後記は次号に掲載予定です。)

『ジェンダー研究』編集方針

- 1 『ジェンダー研究』（以下、本誌）は、学際的・国際的なジェンダーに関する最新の研究成果を発信し、グローバルなジェンダー研究の発展に寄与する。
- 2 本誌は、特集記事・投稿論文・書評からなる。
- 3 本誌は特集記事を企画し、時宜にかなったもの、国際的な関心の高いもの、新領域を開拓するものなど、現在のジェンダー研究にとって重要であるテーマで、質の高い論文を掲載する。
- 4 投稿論文は、国内外・学内外を問わず公募し、厳正な審査を経て掲載することで、質の高い学術論文の国内外への頒布を進める。
- 5 書評は、国内外のジェンダーに関する書籍を厳選し、最先端の研究動向の紹介およびそれについての考察を加えた論評を行う。
- 6 本誌の刊行により、国内外・学内外のジェンダーに関する研究の発展を促進し、グローバルかつ有機的な研究交流の構築を目指す。そして、国立大学法人として、男女共同参画社会の実現に貢献する等の、社会的要請にも応える。

『ジェンダー研究』投稿規定

- 1 投稿する論文は、女性学・ジェンダー研究に関する、学術的研究に寄与するものとする。
 - 2 投稿者は、国内外を問わず、学際的に女性学・ジェンダーに関する研究に従事する、原則として修士号取得相当以上とする。
 - 3 投稿する論文は、未発表の論文に限る。なお、この規程に違反した場合、新たな投稿を受け付けられないなど、しかるべき措置をとる。
 - 4 論文執筆における使用言語は、原則として日本語または英語とする。日本語／英語以外の言語による投稿に関しては、編集委員会において検討する。
 - 5 投稿論文は、
 - ・日本語の論文は、注・図表・参考文献を含めて20000字以内。
 - ・英語の論文は、注・図表・参考文献を含めて8500ワード以内。
 - ・なお、1図表500字相当、1ページを要する場合は1000字相当とする。
 - ・挿図の場合は、1ページあたり1000字、刷り上がり20頁内に入ることを原則に、およそ20点までとして全体を構成する。
 - ・挿図に用いる図版の掲載許可については、投稿者が自らの責任において然るべき手続きをとる。なお許可に要する費用は、投稿者負担とする。
- *定められた字数などの制限を超えた場合、形式において甚だしく不備がある場合には、受理できない。

- 6 論文の提出時には、本文・図表・参考文献のほかに、以下についても提出すること。
 - 6-1 表紙。論文タイトル（副題も含む）と投稿者氏名・所属を、日本語と英語とで記す。（タイトル等の英語表記は、確認のうえ編集事務局で変更する場合もある。）
 - 6-2 日本語要旨。400字以内。
 - 6-3 英語要旨。200ワード以内。ネイティブチェック済のもの。
 - 6-4 キーワード。日本語・英語ともに5語以内で、それぞれの要旨の後に記載する。
なお、執筆者を特定するようないかなる情報（謝辞、科研番号）も記載してはいけない。
- 7 投稿論文は、ジェンダー研究所ウェブサイト上の、以下のいずれかの投稿フォームより、必要事項を入力したうえで、メール添付にて送付すること。
日本語投稿フォーム <https://form.jotform.me/72482244933459>
英語投稿フォーム <https://form.jotform.me/72488720633461>
- 8 本文と要旨などのテキストのデータは Word と PDF のファイルにし、図、表のデータは Word または Excel と PDF にし、写真は JPEG と PDF のファイルにして提出すること。
- 9 他の文献等から図、表、写真などの転載を行う場合は、原則として投稿者が自らの責任において必要な手続きを行う。その際の費用に関しては投稿者が負担する。
- 10 本文、引用文、参考文献、注については、別に定める〈『ジェンダー研究』執筆要項〉に従う。英語の投稿論文は *Style Sheet for Journal of Gender Studies* とする。
- 11 投稿論文の掲載の可否は、査読者による審査のうえ、編集委員会が決定する。ただし、本投稿規定・執筆要項や本誌の趣旨に合致しない原稿、また学術的論文としての水準を著しく達していないと判断された場合、審査の対象外とする場合もある。
- 12 編集委員会は、査読者の審査にもとづき、投稿者に論文の修正を求めることがある。求められた投稿者は、速やかに論文を修正し、修正対応表をつけて、メールにて提出しなければならない。
- 13 投稿者による校正は原則2回までとする。
- 14 投稿後、投稿論文を取り下げの場合は、速やかに編集委員会に申し出ること。
- 15 原稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。ただし、図・表・写真などが多い場合には、執筆者による自己負担となることがある。
- 16 掲載論文の著作権はお茶の水女子大学ジェンダー研究所に帰属するものとする。転載を希望する場合には、編集委員会の許可を必要とする。

- 改訂 1. 2017年10月27日制定
2. 2021年5月14日改訂

『ジェンダー研究』執筆要綱

<http://www2.igs.ocha.ac.jp/wp-content/uploads/2019/11/yoko2019.pdf>

お茶の水女子大学ジェンダー研究所

『ジェンダー研究』 第25号

編集委員会

編集委員長

申 琪榮 お茶の水女子大学ジェンダー研究所

編集委員

天野 知香 お茶の水女子大学基幹研究院文化科学系
水野 勲 お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系
森 義仁 お茶の水女子大学基幹研究院自然・応用科学系
石丸 径一郎 お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系
大橋 史恵 お茶の水女子大学ジェンダー研究所
倉光 ミナ子 お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系
脇田 彩 お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系

学外編集委員

三浦 まり 上智大学法学部
金井 郁 埼玉大学経済学部
北原 恵 大阪大学文学研究科
板井 広明 専修大学経済学部
Jan Bardsley ノースカロライナ大学
Karen Ann Shire デュースブルグ・エッセン大学

編集事務局

平野 恵子（特集、研究論文編集） お茶の水女子大学ジェンダー研究所（2022年3月まで）
仙波 由加里（書評編集） お茶の水女子大学ジェンダー研究所（2022年3月まで）
嶽本 新奈（特集、研究論文編集） お茶の水女子大学ジェンダー研究所（2022年5月から）
黒岩 漠（書評編集） お茶の水女子大学ジェンダー研究所（2022年5月から）
和田 容子（校閲、マネージメント） お茶の水女子大学ジェンダー研究所

2022年7月31日 発行

編集・発行 お茶の水女子大学ジェンダー研究所

〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1

TEL: 03-5978-5846

igsoffice@cc.ocha.ac.jp

<http://www2.igs.ocha.ac.jp/>

表紙・目次デザイン 塩飽 晴海

印刷・製本 能登印刷株式会社

Institute for Gender Studies, Ochanomizu University

Journal of Gender Studies No. 25

Editorial Board

Editor-in-Chief

SHIN, Ki-young
Institute for Gender Studies, Ochanomizu University

Editorial Board Members

AMANO, Chika
Humanities Division, Faculty of Core Research, Ochanomizu University

MIZUNO, Isao
Human Science Division, Faculty of Core Research, Ochanomizu University

MORI, Yoshihito
Natural Science Division, Faculty of Core Research, Ochanomizu University

ISHIMARU, Keiichiro
Human Science Division, Faculty of Core Research, Ochanomizu University

OHASHI, Fumie
Institute for Gender Studies, Ochanomizu University

KURAMITSU, Minako
Human Science Division, Faculty of Core Research, Ochanomizu University

WAKITA, Aya
Human Science Division, Faculty of Core Research, Ochanomizu University

MIURA, Mari
Faculty of Law, Sophia University

KANAI, Kaoru
Faculty of Economics, Saitama University

KITAHARA, Megumi
Graduate School of Letters, Osaka University

ITAI, Hiroaki
Faculty of Economics, Sensyu University

BARDSLEY, Jan
University of North Carolina

SHIRE, Karen Ann
University of Duisburg-Essen

Associate Editors

HIRANO, Keiko (Special Section, Articles)
Institute for Gender Studies, Ochanomizu University (Until March, 2022)

SEMBA, Yukari (Book Reviews)
Institute for Gender Studies, Ochanomizu University (Until March, 2022)

TAKEMOTO, Niina (Special Section, Articles)
Institute for Gender Studies, Ochanomizu University (Since May, 2022)

KUROIWA, Baku (Book Reviews)
Institute for Gender Studies, Ochanomizu University (Since May, 2022)

Managing Editor, Proof Reader

WADA, Yoko
Institute for Gender Studies, Ochanomizu University

Date of Issue:	July 31 st 2022
Publisher:	Institute for Gender Studies, Ochanomizu University 2-1-1 Ohtsuka, Bunkyo-ku, Tokyo 112-8610, Japan Tel : 81-(3)-5978-5846 Email: igsoffice@cc.ocha.ac.jp URL: http://www2.igs.ocha.ac.jp/en/
Cover Design:	SHIWAKU, Harumi
Printing Office and Bookbinder:	Noto Printing Corporation